



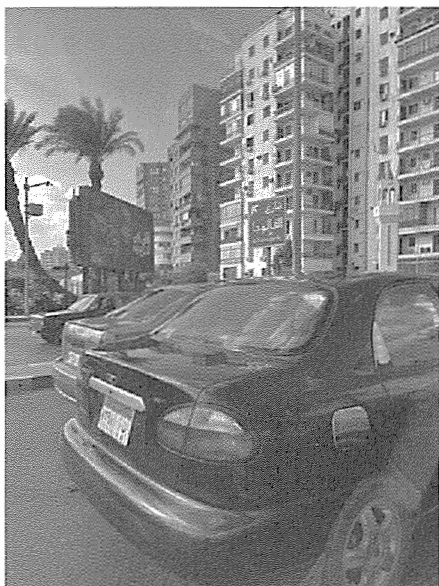
エジプトアラブ共和国乳房撮影の現状

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 連携協力部 展開支援課

診療放射線技師 藤井めぐみ

今回私は、令和4年度医療技術等国際展開推進事業（以下、展開推進事業）の「エジプトアラブ共和国乳房撮影技術強化事業」として12月2日から10日の9日間エジプトに渡航しました。もともと海外旅行などに頻繁にっていたわけではない私にとっては、はじめての中東への渡航であり緊張していました。成田空港からドバイ国際空港経由で約20時間の移動は腰を酷使しましたが無事にカイロ国際空港に到着しました。カイロ国際空港から市街地には車で約30分程度です。この30分の道中、私は信じられない光景を目にしました。私の目にはどう頑張っても2車線にしか見えない道路を平然と車が3台並んで走っていくのです。また、走りながらどこからともなく絶えずクラクションの音が聞こえてきます。日

本ではこのような運転を私は見たことがありません。地元の仙台市でも東京都でも車線に並んでおとなしく走っている車しか私は知らないのです。到着して数時間でこんなにも自分の常識が覆されるのかと衝撃でした。その後にあったエジプトの方々に私の衝撃を伝えると皆笑ってくれましたし、今回アラビア語通訳をしてくださったOlaさんは「私は勇気がないから運転免許はあっても絶対にエジプトでは運転しない」といっていました。そして、普段から運転されている方は「エジプト人はクラクションで会話をしている」と言っていました。そして、さらに驚かされたのは歩行者がどこでも横断していることです。なんの躊躇いもなく道路を横断していたり、道路の中心でお花を売っていたりします。カイ



カイロ市内の道路



保健省管轄病院乳房撮影室①

口市内は常に渋滞をしているため車の速度は遅いですが、それでも私は滞在中一人では道路を渡るのも命がけでした。

今回の渡航の目的である展開推進事業とは、日本の機器や技術を広めることを目的とした活動を行うものです。今年度、国立国際医療研究センター放射線診療部門の診療放射線技師はエジプトでの乳房撮影技術を強化することを目的とした事業を行っています。エジプトでは女性のがん死亡率の中で乳がんがトップであることをとても問題視していました。この点に私たちは注目しました。日本では乳房撮影に関して診療放射線技師に対する認定制度が存在します。5年ごとに認定を更新する必要がある、乳がんに関する知識や検査に関する知識。そして画像読影に関する知識、さらに撮影技術を総合的に判断され認定が付与されます。このような制度により乳房撮影の技術が担保されています。しかし、エジプトでは定期的な技術の確認がされておらず、学ぶ機会も限られてしまっています。そのため、乳房撮影技術に関して学ぶ機会を設けること、お互いの知識を共有しさらに発展させていくことを目的とした事業を開始し、エジプトの医療の質向上に貢献できる事業を展開したいと思っています。今回の渡航では、エジプトでの乳がん検診の現状を把握し今後のセミナー開催方法や来年度の活動の継続について協議することを目的としていました。

まず、エジプトの乳がん検診の現状については保健省管轄病院である2病院を対象に乳房撮影室を視察させていただきました。室内はとても綺麗に使用されており担当している診療放射線技師は女性だけでした。エジプトではイスラム教を信仰されている方が多く、女性の検査は女性が行うこととなっているようでした。特に乳房撮影は着衣での検査が行えないことから女性が行う検査として認識されていました。日本では数年前までは当たり前のように男性も乳房撮影を行っている病院も多くありましたが、近年は女性技師が担当する病院が多くなってき

たように思われます。しかし、エジプトでは100%女性が担当しているとのことで、ここでも日本との違いを感じました。また、乳房撮影で困っていることを聞いた際に男性乳房撮影や乳房の大きさの違いによる撮影方法の工夫について知りたいという要望が多く上がりました。乳房撮影は患者さんそれぞれの体型にあわせた撮影が重要であり、対応する方法を身に着けることでより良い画像を撮影できるため今後のセミナーでこのような内容を盛り込んだ内容にするように協議しました。

また、日本では乳房撮影装置の精度管理を行うために始業時に必ず点検を行っています。その点検には前日の撮影状況と変化がないかを記録するために毎回同じファントムと呼ばれる物体を撮影し、模擬の乳がん腫瘍が観察できているか、石灰化が確認できるかをチェックしています。エジプトではそのファントムが施設に設備されておらず、このようなチェックは行っていないとのことでした。この点については大いに改善の余地があると感じ、今後日常的な装置の点検の重要性を訴えていかななくてはならないと強く感じました。日本では装置が故障した際にその日のうちもしくは翌日には修理が終了することがほとんどです。しかし、物品のスベアパーツが十分でないことや修理を行う技術を自国で持っていない場合もあります。そのことを踏まえても継続的で安全な検査のためには装置の精度管理という考えをより広く伝えていくことが必要だと感じました。

今回エジプトに渡航し、たくさんのエジプト人の方と交流させていただきました。出会った方々みなさんととても親切で日本から来たと伝えるととても喜んでいただくことができました。同時に私たちがどのような活動を行うのかとても期待されているということを感じました。エジプトでは国民皆保険制度を始めるなど保健分野で大きく成長しようとしています。私たちの活動がその一助となれるように邁進していこうと改めて決意した9日間でした。



保健省管轄病院乳房撮影室②



保健省管轄病院乳房撮影室③